

経営比較分析表（令和3年度決算）

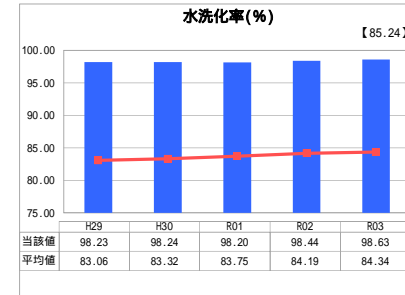
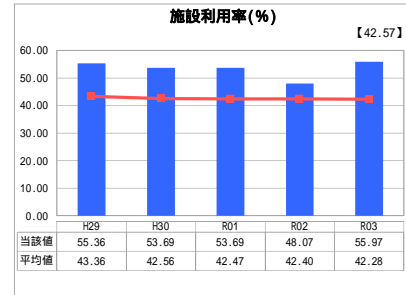
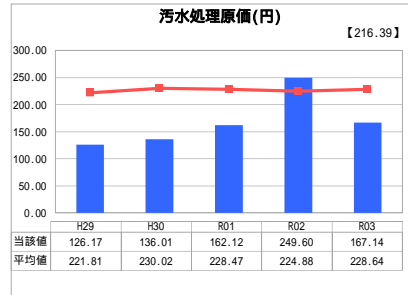
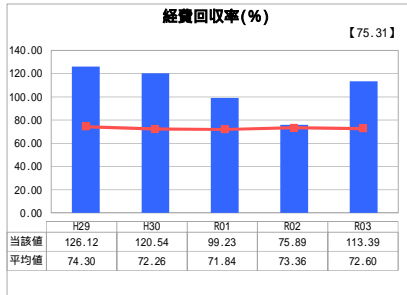
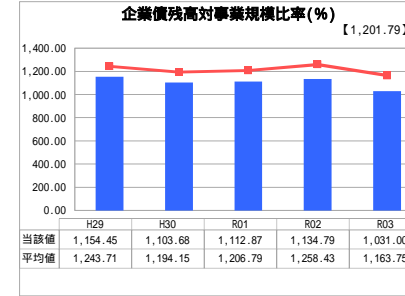
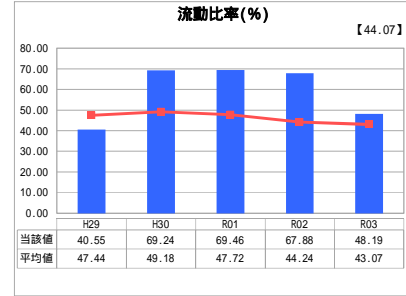
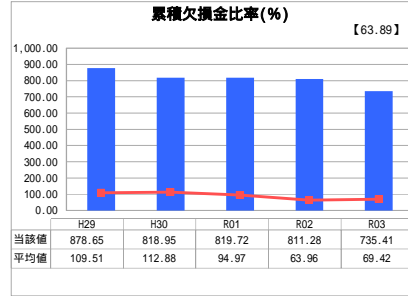
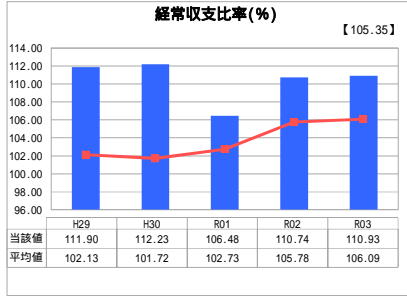
兵庫県 神河町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	46.92	58.20	82.65	4,400

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
10,884	202.23	53.82
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
6,266	4.56	1,374.12

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

施設の統合による水洗化人口の増加により一時的に使用料収入が増え、経常収支比率は100%を超えた良い状況となっているが、今後、人口減少により、収入は減り一般会計からの繰入金に依存した運営になっていくと思われる。

累積欠損金比率は、直近年度では当期純利益を確保できているため徐々に下がっているが、依然として高い水準にある。今後も内部留保資金の運用に留意しながら引き続き累積欠損金の解消に向けて経営の健全化に努めていく。

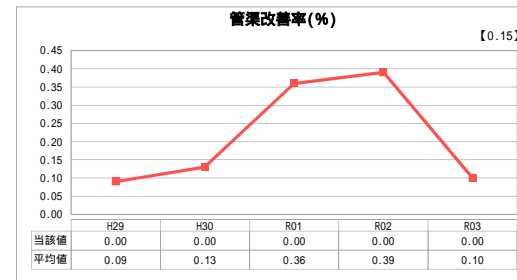
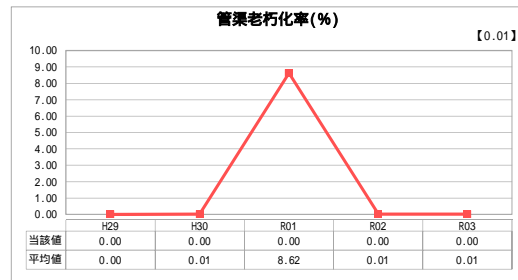
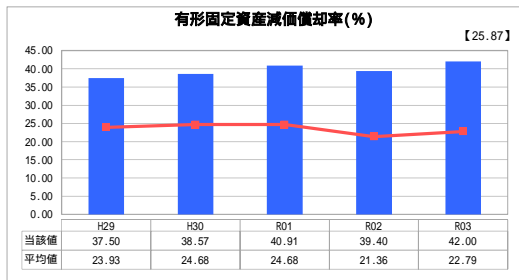
当年度は施設の統合により、流動比率、経費回収率、施設利用率の改善に繋がっている。

2. 老朽化の状況について

供用開始から20年以上が経過し、令和2年度ですべての施設の長寿命化工事が完了し正常に稼働している。管渠や処理場建物は現在のところ特に問題はないが、マンホールポンプ及び中継ポンプの機械装置の修繕が多くなっている。

今後、施設統合を計画通り実行し、効率的で持続可能な事業運営を実施する。

2. 老朽化の状況



全体総括

当町の下水道事業は、合併浄化槽エリアを含め、全町で生活排水処理施設が整備されており、集合処理区での生活排水処理率は99.0%と高い数字で、住民の皆様快適な生活環境を提供している。

令和2年4月1日から下水道使用料を人頭制から従量制へと移行し、若干ではあるが多くの家庭で料金の引き下げとなったが、依然下水道使用料は水道料金とともに県下トップクラスであり、大きな住民負担を強めている。

下水道事業を将来にわたり安定的に継続していくため、平成29年に策定した経営戦略の見直しを行い、「神河町下水道事業経営戦略令和3年度改訂版」を策定し、健全な運営に向けてコスト意識の高揚、経費の削減、未収金収納率のアップ、水洗化率のアップに努めていく。また、30年後を見据えて近隣市町との広域化、共同化の検討等、他の自治体の事例も参考にしながら、町民にとってより良い下水道事業のかたちを総合的に検討する。